

平成26年度事務事業評価シート					取組みコード	42143
区分	事務事業		担当課	スポーツ・文化振興課	作成日	平成26年5月30日
事業名	郷土資料館業務管理経費		開始年度	平成21年	予算科目	9.4.6.1.1

1. 事業の概要

総合計画での位置づけ			
部	第4部 豊かな人間性を育む文化のまちづくり	章	第2章 活発で個性豊かな文化づくり
節	第1節 地域文化の振興	基本施策	4 文化財の活用
取組みの基本方向 (3)郷土資料館を拠点とした文化財の保存と活用をはかります。			
根拠法令等	文化財保護法・博物館法		
目 的 (誰・何を対象に、何のために)	地域住民を対象に、自らが居住するこの地の歴史・自然・文化の価値を再認識してもらう。他地域から来訪した人を対象に、愛川町という存在を紹介する。		
内容・方法 (何を行って、いるのか)	常設展示という手法により、この地域の歴史や自然の特徴的な部分を切り取って紹介する。希望団体に対しては、職員が解説も行う。また、毎年、企画展示という形で、常設展示で紹介できなかったものや、常設展示の各コーナーの特別拡大版を開催する。また、これに合わせて、講座や見学会、観察会などの事業を行う。		

2. 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標	指標名		平成21年度	平成28年度			
	「地域文化の振興」について満足と感じる住民の割合		39.0	44.0			
	郷土資料館の入館者数		69,960	50,000			
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果			町内外からの見学者を着実に獲得する				
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度(H23年度)	平成24年度	平成25年度	平成26年度
郷土資料館の入館者数	増	年間の入館者数	計画値		50,000.0	50,000.0	50,000.0
			実績値	60,728.0	53,635.0	55,051.0	
			達成度※自動計算		107.3	110.1	0.0
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動			創意工夫を凝らした企画展を実施する				
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度
企画展などの自主事業実施回数	増	年間に企画展をはじめとする自主事業展示会を実施した回数 ※計画値は当初予算時の予定回数	計画値		2.0	3.0	3.0
			実績値		7.0	7.0	
			達成度※自動計算		350.0	233.3	0.0

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3. 事業費の推移と財源内訳

3. 事業費の推移と財源内訳			(E) 平均人件費(円/年)	8,300,000	
年 度		基準年度(決算) (H23年度)	平成24年度(決算)	平成25年度(決算見込)	平成26年度(予算)
(A) 事業費(円)		5,946,193	5,869,470	5,637,464	4,254,000
(B) 概算職員数(人)		2.000	2.000	2.000	2.000
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算		16,600,000	16,600,000	16,600,000	16,600,000
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算		22,546,193	22,469,470	22,237,464	20,854,000
単位当たりコスト※自動計算		371.3	418.9	403.9	
財源内訳 (円)	特定財源	国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源※自動計算		22,546,193	22,469,470	22,237,464

4. 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である。		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない。市場原理に委ねることができない。	○	
	国や県において同類種の事業が実施されていない。	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの変化がない。	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている。	○	
	受益に応じた負担は適正である。		
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である。	○	
	町民の日常生活に必要な不可欠な事業である。		
上記のいずれにも当てはまらない。			
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成25年度の目標を達成している	○	B
	基準年度と比較して成果が向上している	×	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用減<成果ダウン	C
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	間接的	B
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		改善すべき点がある	

5. 特記事項

入館者数については、開館初年度である基準年と比較すれば減少しているが、年度の目標は達成しており、施設の設置目的の達成には支障はない。また、経費については、年々少しずつであるが減少している。

6. 自己評価(担当課)

評価結果	☒ 現状維持	☐ 拡 充	☐ 改 善	☐ 縮 小	☐ 再 構 築	☐ 廃 止
理由	特記事項欄に記載した理由から、業務自体を大幅に変更する必要はないと考える。					
今後の方向性	活動指標である企画展示については、収蔵資料展や写真展など、経費をかけない事業を随時実施し、計画値以上の実績を挙げており、昨年には2月の入館者が少ない時期の対策として、新たに町民公募作品による「ふるさと愛川写真展」を開始した。昨年度は大雪のため、観客が見込みより1/4程度であったが、今後は入館者の増加が見込まれるので、今後も工夫した企画展を実施していく。					

7. 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	☒ 現状維持	☐ 拡充	☐ 改善	☐ 縮小	☐ 再構築	☐ 廃止
今後の方向性に係る意見等	効率性の評価がCとなっているのは、開館初年度である平成21年度と比較して入館者が減少しているためであるが、総合計画の目標指標を上回っており問題はない。所管課の方向性のとおり、現状の範囲で創意工夫しながら事業を継続すべきである。					

8. 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	☐ 現状維持	☐ 拡充	☐ 改善	☐ 縮小	☐ 再構築	☐ 廃止
今後の方向性に係る意見等						

9. 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

平成25年度、新規事業として実施した町民公募作品による展示会「ふるさと愛川写真展」は、平成26年度以降も実施していく。ただし、毎年、募集作品のテーマは変えることにより、マンネリ化を防ぐこととしたい。また、昨年度から開始した新規事業「古文書講座」についても、本年度も実施する。

10. 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	☒ 現状維持	☐ 拡 充	☐ 改 善	☐ 縮 小	☐ 再 構 築	☐ 廃 止
理由・改善方針	所管課の方向性のとおり、企画展示等について創意工夫しながら事業を継続する。					